

<ガザニア葉腐病>



鉢栽培での発病

<ガザニア葉腐病>

病原菌：Rhizoctonia solani Kühn

1. 症 状

下位葉に不明瞭な褐色の病斑が生じ、葉腐れを生じる。罹病葉間には白色～褐色の菌糸が伸長し、隣接葉、隣接株に広がる。

2. 生 態

病原菌は各種の植物を侵す。また耐久性のある菌核を形成する。

3. 防 除

1) 発病株は直ちに除去する。 2) 健全株から採穂する。 3) 過湿を避ける。

4. 記 事

本病は1992年10月、江戸川区の鉢栽培（露地）で発生した。また、花壇植えても発生が認められている。